

平成 25 年度 卒業論文研究計画書  
大学生のアルバイトでのキャリア形成

2013 年 7 月 13 日

酒井麻衣子ゼミ

21011213 鈴木拳太郎

1. 【背景】

今日の大学生のほとんどがアルバイトをしていて、大学生生活のうち多くの時間を費やしている人が多くいる。

求人情報サービス an の調査では、大学 1・2 年生のうちにはファーストフード・居酒屋・家庭教師など、学生のアルバイト仲間が多く、入りやすいアルバイトを選び、3 年生後半より、営業職など就職後を意識したスキルアップ直結のアルバイトにシフトする・・・という動きが一般的だった。しかし最近、1・2 年生のうちから接客・営業などを選ぶ学生が増えてきている。就職活動で悩む先輩を目の当たりにし、自らの就職に焦りを感じる大学 1・2 年生において、アルバイトを就職につながる力を身につけるチャンスとして捉える傾向が高まっている。1・2 年生のうちから就職活動を意識したアルバイト選びをしているが、職業の種類も影響はするだろうが、個々の取り組みの方が影響は大きいだろう。

先行研究論文（大阪大学准教授関口氏）では「学生にとっては身近な経験であるアルバイト活動について、アルバイト経験の質を高め、適切なアルバイト時間を保つことが、学生自身のキャリア形成や学校から職業社会への移行において重要な役割を果たしていることが推察される。」

と書いてあったが、適切なアルバイト時間を保つということで、ある一定時間まではキャリア形成にプラスの影響を与えるが、一定時間を超えるとマイナスの影響が出るという記述があった。

大学生の勉強時間がアルバイトに使われ、大学での勉強と同じまたはそれ以上の時間を費やすアルバイトで長くやるのがキャリア形成にマイナスをもたらすのは問題だと考える。大学生が行うアルバイト活動が、無条件にキャリア形成に役立つということではなく、アルバイト経験をキャリア形成に生かすためには、アルバイト活動で行う仕事の中身と取り組み姿勢、そして適度なアルバイト時間を考慮することが重要だということである。

2. 【問題意識】

学生がアルバイト活動をする際には、それが貴重なキャリア形成の機会であることを認識し、積極的にそのような機会を自らの成長や学習に役立てようとする意識をもつ

て、適切なアルバイト時間のなかで主体的に仕事に取り組むことが大切だということがわかっている。では、現在の大学生で実際に上記のような意識をもって仕事（アルバイト）に取り組んでいる人はどれだけいるのだろうか。

また、キャリア形成にマイナスにならないようにするにはどのように取り組めばいいのか、お金以外に得ていることのある人はどれだけいるのだろうか。大学の授業では得られない経験をしているのだろうか。また、得ていることのある人とない人でどのような違い（仕事内容・意欲・周囲の環境など）があるのか明らかにする。

### 3. 【研究方法】

大学生のアルバイトにおけるキャリア形成の調査

- ・調査対象：大学生
- ・調査方法：留め置き法による質問紙調査
- ・調査内容：調査概要に関しては考案中

### 4. 【研究スケジュール】

7月13日 SRC

8月：先行研究のまとめ／調査票の作成

9月：プレ調査実施／調査票の修正

10月：本調査実施／調査結果の集計・分析

11月：調査結果のまとめ／仮説の検証・考察／結論・今後の課題

12月：清書／論文完成

### 5. 【参考文献】

- ・大学生のアルバイト経験とキャリア形成 大阪大学 准教授 関口倫紀  
<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2010/09/pdf/067-085.pdf#search=>
- ・求人情報サービスan 大学生、就活見据えバイト選び 就職難が影響(2013/06/12閲覧)  
<http://www.inte.co.jp/corporate/library/survey/data/20100316.pdf#search=>